

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	モン・サン あぜかり I		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	H27年10月14日	評価結果市町村受理日	平成28年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年11月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食事やおやつ以外の時間にもお茶の提供を行い、1日の水分補給量を個人記録に記入する。「こまめな水分補給を行う。」※(前年度の目標で今年度は特に決めていません)
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「楽しく・優しく・元気よく」を基に、事業所はケアの統一と利用者の思いに寄り添った支援を目指している。職員は、利用者のために楽しい雰囲気を作ったり、自身の体調不良時にも表情に出さないよう元気よく目指す介護を念頭に置き支援している。また、地域自治会加入、地域祭りへの参加、近隣小学校との交流など積極的に行っており、地域に溶け込んでいる。今年度より、管理者が新人職員に対して3ヶ月ごとに面談し、相談を受けたり、指導を行い新人育成に力を注いでいる。更に、母体である医療機関との連携し、利用者の状態変化の早期発見による重度化防止に努めている。地域との関わりを多く持つことから、今後も更なる地域に密着した福祉に関する貢献と役割が期待される事業所である。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を日々頭に入れながら業務に取り組んでいる。	「楽しく、優しく、元気よく」の理念のもと理念に沿ったケアを行っている。職員は理念を具現化するため自ら元気になるよう努めている。更に、楽しく仕事をするためモチベーションを上げ、利用者に明るく接している。新人職員には管理者が入社時に理念の意味を説明し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民大清掃はもちろん、定期的な地区の掃除、団地の夏祭りの参加、行事等の参加で交流を深めている。	近隣の鳴見台小学校と年に3回交流がある。「子ども110番の家」にもなっている。また、三重地区の運動会や地域の清掃行事にも積極的に参加している。事業所のスプリンクラーのタンクの水漏れ時には地域住民が連絡してくれるなど、日常的に交流し協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に3回、鳴見台小学校4年生の総合学習で「年をとるとは?」「認知症とは?」の内容で交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事や入居状況の報告を行い、包括支援センターの職員又は、行政センターの職員、自治会の方々の質問等に答えている。	2ヶ月に1度行っている。会議の中で消防訓練への地域住民の参加を依頼している。他事業所の虐待事例報告から、虐待防止の認識を深めるためにも、新人には半月に1度の面談、新人教育を3ヶ月から6ヶ月に延長するよう意見が出され改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営の中で不明な点は直ぐに伺いを入れ情報収集行っている。	行政が行っている認知症サポートの研修などに参加している。基本的には施設長が行政と連絡を取り合っており、情報を共有している。また、事業所の担当者がいるため、何かあれば直ぐに連絡が取れる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指しており、新人職員にもオリエンテーションで伝えている。他の事業所で身体拘束の報道があれば直ぐに申し送り等で伝えている。	法人研修、行政研修、内部研修にて身体拘束をしないケアを勉強し実施している。「待つ」という言葉も意識して使わないよう、言葉による拘束をしないケアを目指している。新人には研修で周知徹底し、また、他事業所の虐待の事例を挙げて再認識し職員間で共有し支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については常に行わないを頭に入れケアを行っている。他の事業所で虐待の報道があれば直ぐに申し送り等で伝えている。※特に言葉の暴力に関して注意する努力に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際 成年後見制度を利用している入居者も居る為、研修に参加する機会があればと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている業務ではあるが、スタッフも御家族の質問に対し説明出来る知識を少しずつでも説明出来る様 努力をしている。「わからない」と言わない努力。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時に近況の報告を伝え、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築く努力をしている。また運営推進会議でも御家族の参加があれば話して頂いている。	5月にご意見箱の中に無記名で「事業所の雰囲気が悪い」という意見があり、運営推進会議の中で話し合った。職員の入れ替わりもあった事から新人研修の見直しを図り、研修期間や面談を増やして改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各リーダーがスタッフの意見を収集をし、管理者に報告し問題の解決につなげている。	職員の意見は、各階のユニットリーダーが会議等で収集し、管理者へ報告している。特に新人職員には3ヶ月に1度の割合で管理者が話を聞く仕組みがある。毎月のシフト作成時には、各職員の希望の休日を優先して聞き取り、調整を行うなど意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に希望休みの伺いを聴き取りながら調整してもらっている。また管理者の方から代表者に勤務態度、仕事状況の報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に新人職員には研修ノートを取り入れ細かな指導を行いながら再確認(オリエンテーション)をしている。半月に1回話をする機会を設け、何かあれば事務所で話をする様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いろんな研修、勉強会に参加し他施設の方々との話を聴き交流を図り、業務の参考にする(困難ケース等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の訪問の段階でしっかりと話の傾聴を行い、不安に思っていることサービスを導入する段階でなるべく取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の訪問時に困っている事や入所にあたっての要望に耳を傾け、スムーズに入所につなげる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の認知症状も含め、生活歴や身体的な情報を出来るだけ多く収集し支援に結び付ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時にはお手伝いをして頂いたり、気持ちが不安定であれば、個別に話を傾聴し、信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時には電話にてお互いに声を聴いて安心して頂いたり、面会時は近況(体調面を含め)報告を進んで行いながら、御家族との信頼関係を築く努力を怠っていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人の方からの連絡があったりするので、繋がりが切れない様にいつでも連絡や面会に来て下さいと伝えたり、御家族の協力の基、外出・外泊の協力をして頂いている。	利用者の希望に沿って、友人との電話の代行や手紙の代筆など行っている。また、同窓会に参加する利用者もおり、家族の協力も得ながら支援している。なお、時間制限はあるものの自由に面会できる体制となっているなど利用者がこれまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールへの誘い出しの工夫をし、居室で1人にしない様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても今後の不安などがある方達もおられるので、相談事があれば連絡して下さいと伝えて、フォローするようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少しでも要望が叶えられる様に本人様と御家族様にケアプラン作成前に伺いを聴き取っている。	職員は午後に余裕のある時間をつくり、利用者や世間話をしながら思いを聞き出している。表出困難な利用者には表情や仕草から把握したり、選択肢の中から希望を選んでもらうなど思いを把握するよう工夫している。収集した情報は申し送り時等に職員間で共有し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聴き取った情報を基に支援を行っている。また環境が変わる為、その通りに行かない場面があるのでその都度話し合いを行いながら統一した介護を行える様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を重視し、出来ること、出来ないことを把握し支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたり、モニタリング、評価、アセスメントをチームで行い、本人様、御家族様の要望も含め作成に取り組んでいる。	介護計画の作成には利用者や家族、職員、医者、計画作成担当者が関わり短期3ヶ月、長期6ヶ月の目標を設定している。利用開始後の計画は1ヶ月で見直している。その後は、モニタリングを基に半年で見直され、設定した目標に対して日々支援を実践していることが支援日誌から確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケアプランを基に個人記録として残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皮膚科、眼科、耳鼻科 各疾患が見られたら受診に向いたり、要望などがあれば個別に買い物に出掛けたりして、外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とは掃除や行事などに参加し交流を深め、より良い信頼関係を築くようにしている。地域の方からもお互いに支えあっていますと言われている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・母体である医療機関の説明と連携の話を事前に御家族様に行っている。(1度必ず施設に訪問して頂く) ・月2回の訪問診察(居宅療養管理指導)の話も同時に行っている。	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者があるが、ほとんどが利用開始時に説明を受け母体法人の医療機関へ移行している。月に2回往診があり、夜間急変時の対応も可能である。異常があれば検査入院しており、その場合は医師が家族に説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師が1週間に1回訪問しバイタルの確認や現状の様子を確認したり、時に医療面からの助言を頂いている。急変時には母体医療機関に連絡をして指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、日常の様子を記入した入院時申し送り表を渡し、退院時には、治療内容や最終排便及び状態などが記入してある退院申し送り表を頂いて連携をはかっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の対応の仕方については、事前に契約の時に話をしているが、実際なった場合は、主治医、御家族、施設側と一緒に話し合いながら対応している。	重度化した場合の指針を作成し、契約時に利用者・家族に説明し同意を得ている。また、状態に合わせて主治医を含め関係者が段階的に話し合い、対応している。利用者の状態などの条件が整えば、看取りを行うよう指針には記載されているが、現在までのところ看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的及び個別的に緊急時に備え心臓マッサージの実演を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災訓練及び、消防器具の点検にも心掛けている。夜間想定訓練も行っているが、地域との連携体制が具体化していない。今後の課題である。	年2回消防署立会いの避難訓練と毎月の自主訓練を実施している。夜間想定訓練も行っている。自然災害時の避難場所の確認、緊急連絡網は整備している。但し、災害時の備蓄は法人全体として提携スーパー内での保管のみであり、事業所独自での備蓄は無い。また、地域に向けての協力体制は声掛けの段階である。	地域住民へ、今後も継続した働きかけを行い参加に繋がる事を期待したい。また、災害時の備蓄は事業所独自で確保することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人1人の自尊心を傷つけない様な言葉掛けに気を付けて行っている。	職員は入社時に守秘義務に関する誓約書を提出している。利用者への言葉掛けは、人格を尊重するよう心がけている。ただし、居室のリハビリパンツやおむつがリビングから見える状態で置かれている。また、写真掲載について家族に口頭で了解を得ているものの書面での同意までには至っていない。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないためには、おむつ類が外から見えないように、配置の検討、目隠しなどの工夫が望まれる。さらに、写真掲載についても書面での同意を得ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションをしっかりと取り、その人の事を知る努力をしている。本人の表情等の変化で個別に話をする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調に合わせてその日のスケジュール(入浴等)を変更したり、休息の時間、1人の時間等作る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪を行い、季節に合った衣服を共に選ぶ様にしている。外出するときはずっとも着ない洋服を着て頂く様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルのセッティング等して頂き、お手伝い出来る所はして頂く様にしている。	契約時に嗜好調査を行い、ミキサー食やアレルギーにも対応している。法人栄養士が作成した献立を基に食材が運ばれ、ユニット毎に職員が調理している。職員と一緒に配膳などを行う利用者もおり、職員と利用者は一緒に食事している。おせち、ピクニック時の弁当は手作りし、利用者が楽しく食欲が増すように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼、嚥下状態等により、トロミを付けたりして、少しでも栄養及び、水分摂取が行える様に工夫をしている。また、偏食の方が居られたりするので、本人に確認を取り副食を主食の上のせたりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い残渣物除去の確認と、義歯洗浄にも心掛けている。自力支援及び見守り重視。舌下のブラッシングも行ったっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックノートを見ながら、排泄間隔を把握、排便状況も把握し不必要に紙オムツを使用しない取り組みを行っている。トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を作成し、各利用者の排泄状況を職員は把握している。定期的な誘導の他、表情や仕草をみて居室のトイレに誘導し、利用者自身で排泄出来るよう支援している。また、トイレで立ち上がりの補助を行うなどして、座位排泄を支援することにより、パッドやリハビリパンツなどの利用枚数の軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に日々努め、排便がみられない時は、母体医療機関に連絡し、Drより下剤の調整指示や診察を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴となっているが、誘い掛けに拒まれる事が有る為、時間を変えて再度の言葉掛けを行う等工夫しスムーズに入浴が行える様に支援している。	入浴は週2、3回、希望の順番で行っている。脱衣所には冷暖房を完備し、脱衣時の急激な温度差に対応している。車椅子の利用者も2名で介助し、湯船に浸かれるよう支援している。入浴拒否の利用者には時間や声掛けを変えて誘導している。また、シャワー浴や清拭などを行い清潔に保たれるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者1人1人の体調に合わせて休息を促しながら目張りのある生活の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方内容と効能、副作用等が把握出来る様にしている。また薬剤師の方が薬を持ってきているのでその時に薬剤の質問をしている。お薬手帳も活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を発揮出来る支援を行っている。(洗濯物たたみ・箱折など)外出支援も盛り込んでいる。(以前は裁縫をしている方もいた)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	長崎の行事見学(ランタン・おくんち)弁当持参にてピクニック・花見見学にも出向いている。また個別でお買い物に出掛けたり、地域の夏祭りに出掛けたりして、外出する機会を増やす様にしている。	天候や利用者の体調に配慮しながら、事業所敷地や周辺を散歩している。年5回、ピクニックを行い遠方へドライブしたり、地域夏まつりへ参加している。希望があれば可能な限り、個別の買い物などの外出支援も行っている。また、家族の協力でも墓参り等の外出もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度の管理可能な方は御家族の了承を得て、買い物支援を行っている。(数人しかいない)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキの代筆や、「家族の声が聴きたい」との要望があれば、電話をして本人に繋げる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の温度調整、換気、照明、季節感のある環境整備を行っている。	リビングには、ダイニングテーブルと小上がりの畳コーナーがあり、利用者に配慮した室内の明るさである。ユニット毎に職員が季節感を醸し出す飾り付けを行っている。台所からの調理の音や匂いがして生活感もあり、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて過ごす方、窓辺で過ごす方、居室で過ごす方、各々が思い思いに過ごせている。自由な時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを居室で見たい方の持ち込みや、馴染みの家具、アルバムの持参は可能である。入所前に馴染みの物を持ってきて頂く様に伝えている。	利用者が居心地良く暮らせるよう、居室への持込みは自由である。テレビや冷蔵庫などの家具類や写真、小物など利用者好みに配され個性ある居室となっている。掃除は毎朝、シーツ交換は週1回行っている。居室の冷暖房は職員がその都度、温度を確認しながら調節している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにその方に合った高さの手摺を設置したり、トイレが終わったら知らせのブザー等の工夫をしている。ホール内にも手摺を付け、安心して歩行ができる様にしている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	モン・サン あぜかり II		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	H27年10月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・なるべく見守り、言葉掛け、一部介助で対応し、自立支援を進めていく。傾きがある際は居室での休息の促し。ひやり はつと用紙の提出と、事故が起きた時の早急な話し合いを行う。「転倒・転落防止(事故防止)」※(前年度の目標です。今年度は特に決めていません)

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を職員全員が頭に入れながら日々の業務に取り組んでいる。(新人職員も含む)		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回の自治会の方も含めての運営推進会議、市民大清掃、団地の夏祭りにも参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年 鳴見台小学校4年生の総合学習で「年をとるとは？」「認知症とは？」の内容で交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事や入居状況の報告を行い、包括支援センターの職員、自治会の方々の質問等に答えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの研修の参加・地域包括支援センターからの研修を行いながら日々の業務に役立てる様にして不明な点は直ぐに伺いを入れ情報収集行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内(法人)研修で身体拘束をテーマにした内容も多く、参加して行きながらケアの統一と確認及び、申し送りの徹底。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内(法人)研修に参加し、施設内でのひやりはつとを収集し業務の振り返りを行う。※特に言葉の暴力に関して注意する努力に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際 成年後見制度を利用している入居者も居る為、研修に参加する機会があればと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実際は管理者が行っている業務ではあるが、スタッフも御家族の質問に対し説明出来る知識を少しずつでも説明出来る様 努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時に近況の報告を伝え、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築く努力をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各リーダーがスタッフの意見を収集をし、管理者に報告し問題の解決につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に希望休みの伺いを聴き取りながら調整してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に新人職員には研修ノートを取り入れ細かな指導を行いながら再確認(オリエンテーション)をしている。※理念の説明と理解。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いろんな研修、勉強会に参加し他施設の方々との話を聴き交流を図り、業務の参考にする(困難ケース等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当日はお迎えに同行し寄り添いながら話の傾聴を行い、安心感を持って頂ける努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の訪問時に困っている事や入所にあたっての要望に耳を傾け、スムーズに入所につなげる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の認知症状も含め、生活歴や身体的な情報を出来るだけ多く収集し支援に結び付ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安感や不穏が見られた際は個別支援を行い、話を傾聴し安心した精神状態を保てる様に工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時には電話にてお互いに声を聴いて安心して頂いたり、面会時は近況(体調面を含め)報告を進んで行いながら、御家族との信頼関係を築く努力を怠っていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少しでも不安の解消が出来る為にもアルバム持参や、馴染みの物を飾る等している。また外出の協力等試みている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールへの誘い出しの工夫をし、居室で1人にしない様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された御家族様がホームに立ち寄り、話をされて行かれる事がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少しでも要望が叶えられる様に本人様と御家族様にケアプラン作成前に伺いを聴き取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聴き取った情報を基に支援を行うが、入所されてからは、環境が変わる為、その通りに行かない場面がある。統一した介護を行える様 日々の様子を介護者が把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を重視し、出来ること、出来ないことを把握しケアプラン作成の参考に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたり、モニタリング、評価、アセスメントをチームで行い、本人様、御家族様の要望も含め作成に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケアプランを基に行っている。(気づきや体調も含む)次回の作成に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皮膚科、眼科、耳鼻科 各疾患が見られたら受診に出向いたり、個別に買い物に出掛けたりして、外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会との交流として、段ボールの提供とペットボトルのキャップを頂いている。地域の夏まつりと小学校との交流(総合学習参加)を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・母体である医療機関の説明と連携の話を事前に御家族様に行っている。 ・月2回の訪問診察(居宅療養管理指導)の話も同時に行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師が1週間に1回訪問しバイタルの確認や現状の様子を確認したり、時に医療面からの助言を頂いている。急変時には母体医療機関に連絡をして指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、日常の様子を記入した入院時申し送り表を渡し、退院時には、治療内容や最終排便及び状態などが記入してある退院申し送り表を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	著しい体力の低下と特変が見られる際は、母体医療機関と連携を取りながら最善の方法を医師、御家族と話し合いながら決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的及び個別的に緊急時に備え心臓マッサージの実演を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災訓練及び、消防器具の点検にも心掛けている。夜間想定訓練も行っているが、地域との連携体制が具体化していない。今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援にあたる際、常に尊敬の気持ちを忘れずに、心ある言葉掛けを行う様 1人1人が意識を持つ事を常日頃より話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より1人1人の想いが引き出せる様なコミュニケーション作りを行い、馴染みの関係作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分により入浴を拒まれたりする際は時間を空け、再度促しを行いながら入浴して頂くなど工夫をしている。せかす言葉掛けに注意をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪を行い、季節に合った衣服を共に選ぶ様にしている。(衣類の汚染にも気を付けている)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの説明を行い、自力で食べられる様 各々に刻みや、量、盛り付けに工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼、嚥下状態等により、トロミを付けたりして、少しでも栄養及び、水分摂取が行える様に工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い残渣物除去の確認と、義歯洗浄にも心掛けている。自力支援及び見守り重視。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックノートを見ながら、排泄間隔を把握、排便状況も把握し不必要に紙オムツを使用しない取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に日々努め、排便が3日見られない時は、母体医療機関に連絡し、Drより下剤の調整指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴となっているが、誘い掛けに拒まれる事がある為、時間を変えて再度の言葉掛けを行う等工夫しスムーズに入浴が行える様に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者1人1人の体調に合わせ休息を促しながら目張りのある生活の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方内容と効能、副作用等が把握出来る様にしている。誤薬の無い様再確認(名前と顔)を行いながら、服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を発揮出来る支援を行っている。(洗濯物たため・箱折など)外出支援も盛り込んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	長崎の行事見学(ランタン・おくんち)弁当持参にてピクニック・花見見学にも出向いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度の管理可能な方は御家族の了承を得て、買い物支援を行っている。(数人しかいない)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキの代筆や、「家族の声が聴きたい」との要望があれば、直ちに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の温度調整、換気、照明、季節感のある環境整備を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて過ごす方、窓辺で過ごす方、居室で過ごす方、各々が思い思いに過ごせている(こもりきりにはならない工夫)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを居室で見たい方の持ち込みや、馴染みの家具、アルバムの持参は可能である。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにその方に合った高さの手摺を設置したり、トイレが終わったら知らせのブザー等の工夫をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	モン・サン あぜかり Ⅲ		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	H27年10月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・日々の業務で気掛けて言葉遣いに注意する。職員が注意しあえるようにする。気になる事があれば、ひやりはっと用紙に記入する。「入居者様に対する言葉遣いに気をつける(職員間も)」※(前年度の目標で今年度は特に決めていません)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「優しく 楽しく 元気よく」を心掛け笑顔で接して日々の業務を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議は自治会からも参加して頂いており、団地内の夏祭りや市民大清掃や班の清掃に参加している。また廃品回収も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、入居者様を実際に見て頂いたり、認知症の方の生活の様子等の話をおこなっている。また小学校の総合学習の参加及び、自治会総会等の参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して頂いている方々からの意見、要望等があるので持ち帰りサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターからの研修参加や運営の中で不明な点がある場合等は、すぐに伺いをいれ、情報収集を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りと言葉掛けをを行いながら、自由に動いて頂ける様 障害物を最小限にしている。1人1人のケアの統一と確認及び、申し送りの徹底。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のヒヤリ はっとから言葉の暴力に注意する様努めている。また、気づいた事があれば、その場で注意を行ったり、毎日の申し送りの時にも全体的に注意を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加して、学ぶ機会を持つ様になっている。伺いがあると説明が出来る様 備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に訪問し、聴き取りやADL状態を把握し入所時は1つ1つ項目を説明し、納得、同意、確認の上捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告を行ったり、玄関に御意見箱を設置し無記名で記入出来る様になっている。重要事項説明書にも苦情窓口の明記を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、各フロアーリーダーに提案を出し各スタッフからの意見収集を基本としている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は毎月の勤務作成にあたり職員の希望休みを伺いながら、行っております。勤務状況の報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の法人内研修に参加する様に促し、新人職員には、初日にオリエンテーションで法人の説明、理念の内容を伝える様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催、包括支援センター主催のネットワーク会議、GH連絡協議会研修会などに参加し、他施設との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は特に不安感で一杯と思われる為、寄り添い、話の傾聴を重視し、安心感を与える工夫に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所が決定し、初回訪問の際、御家族からの苦情や、困っている事の聴き取りを参考にサービスに繋げる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の生活歴を知り、コミュニケーションの中で役立てる様 努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の場で受容と傾聴を行い、理解を深めるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況の報告を行ったり、御家族には行事の参加の話を行ったりして、入居者・家族・職員と共に過ごせる機会を多く作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出や馴染みのある品物を居室に設置する等して、不安感を少しでも解消出来る様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様 日中は出来るだけホールで過ごして頂き、入居者同士が上手くコミュニケーションが図れる様 職員がクッション役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所されていた御家族様が時折 立ち寄りお話をされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成にあたり本人様、御家族様の少しでも要望が叶えられる様 聴き取り、サービスの提供に役立っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	統一した介護につなげる為、入所前の情報と実際に入所されてからの様子の違いも含め把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員に記録の重要性を理解してもらいながら、日々の記録そのものが、入所者の状態の把握にもなるので、必ず記録に目を通す様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント及びモニタリングはケアカンファ及び、体調の変化に応じて検討している。ケアの統一。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とケアプランとの反映を基本にしている。情報の共有にもつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の気分転換の為に、時々 個別に買い物にお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に寄付する段ボールを集め自治会からはペットボトルキャップを頂いている。小学校(4年生)と交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に母体の医療機関の説明と連携の話をし、要望を踏まえながら診察や訪問診察をして頂く事に納得して頂いている。夜間 緊急時は指示を出して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回 医療連携の看護師と関わり、入所前の状況を把握して頂き、助言をもらっている。発熱や体調の変化、事故の際は母体医療機関に連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、日常の様子を記入した入院時申し送り表を渡し、退院時には、治療内容や最終排便及び状態などが記入してある退院申し送り表を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体力低下が見受けられる方は密に医療機関と連携を取りながら、最善の方法を医師や御家族と話し合いながら決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会を行い個別的に心臓マッサージやAEDの実践を行ったりして急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	夜間想定などの避難訓練を行い、その中で水消火器を使用しての個別指導も行っている。地域と一緒に訓練は行っていないが、自治会長から「私達が施設を助けていきましよう」と言われている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく笑顔で接し言葉掛けに気をつけながら、入所者の自尊心を傷つけない様に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者 個々の話を傾聴し、本人様の意思を引き出せる様な言葉掛け、問い掛けを行います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者1人1人のペースに合わせ急がず様な言葉掛けにならない様 注意をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪と季節に合った衣類を本人様と共に選びながら更衣を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	少なくなったが、本人様が出来るところ(下ごしらえ)はして頂いている。テーブル拭きや、食器拭きのお手伝い等して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取重視を行っているが、栄養が十分に補える様 時には介助を行いながら、入所者1人1人に応じた食事量、形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、洗面共に自立支援(見守り)重視であるが、必ず仕上げ磨きと最終確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックノートに記入を行い、排泄間隔や排便状況を把握し、1人1人に適したオムツ、リハビリパンツの使用に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックノートの確認や日々の水分補給に努め排便が無い時は下剤の調整を行い、それでもみられない場合は、協力医療機関に連絡し、指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴となっているが、誘い掛けに拒まれる事がある為、時間を変えて再度の言葉掛けを行う等工夫しスムーズに入浴が行える様に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人メリハリある生活を行う為、体調や気分に合わせて休息を促す。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在 各階毎にお薬手帳を準備しており、すぐに確認出来るようにしている。また、薬剤師の方がお薬を持って来られる時にわからない事は尋ねる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を見極めながら、可能な限り役割を持てる様な支援を行います。気候が良い時は戸外での散歩や買い物に連れ出します。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時期に花見やピクニック(御家族参加)、おくんち、ランタン等 戸外へ出向き気分転換を図る支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解力と御家族の了承を得て、小銭程度の管理の出来る方は持たせ、個別に買い物や自動販売機のドリンクを購入出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の訴えや気分が落ち込んでいる時は電話を出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内では、温度調整、換気に配慮し季節感のある環境整備を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースが設置されており、入居者同士が思い思いに過ごせる様にしている。また1人で過ごされたい時は居室へ戻り、自分だけの時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でテレビを観たい方はテレビの持ち込みが出来、本人様の使い慣れた物の持参も出来る様にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路や風呂場、居室トイレ等、手摺が設置されており、転倒防止や立位保持が出来る様にしています。		